【報道関係各位】

# 平成 26 年度診療報酬・調剤報酬改定に関する医師・薬剤師調査

**【平成 26 年度診療報酬改定　医師調査】**
**■平成 26 年度診療報酬改定、医師の 74%が「収支に影響あり」**
**■新設された地域包括診療料／地域包括診療加算を「評価しない」とした医師が半数以上**

**【平成 26 年度調剤報酬改定　薬剤師調査】**
**■平成 26 年度調剤報酬改定、薬剤師の 86%が「収支に影響あり」**
**■後発品調剤比率の新指標「55%以上」26%、「65%以上」22%、約半数が新指標を目指す**
**■今後、在宅患者の訪問による薬剤管理・指導を3割が実施予定**

2014 年 4 月 10 日
株式会社マクロミル
（証券コード：東証一部 3730）

株式会社マクロミル（本社：東京都港区、代表取締役会長兼社長：杉本哲哉、以下「マクロミル」）は、平成 26 年度の診療報酬改定および調剤報酬改定にあたり、その影響や今後の予定について、全国の医師 501 名と薬剤師 503 名を対象に調査を実施しました。調査手法はインターネットリサーチ。調査期間は 2014 年 3 月 19 日（水）～3 月 22 日（土）。

＜調査背景＞
平成 26 年度の診療報酬改定、調剤報酬改定を医師、薬剤師はどのように評価しているのか、また今後の勤務先施設の方向性はどうなっているのかを調査しました。

＜調査概要＞
調査方法　：インターネットリサーチ
調査対象　：全国 25 歳以上男女
　　医師　501 名
　　薬剤師　503　名
調査日時　：【医師調査】2014 年 3 月 19 日（水）～3 月 20 日（木）
　　【薬剤師調査】2014 年 3 月 20 日（木）～3 月 22 日（土）
調査機関　：株式会社マクロミル

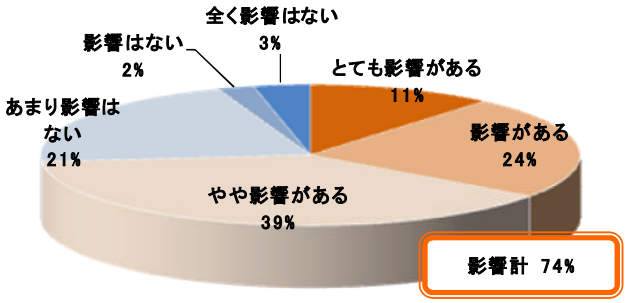
＜サイトＵＲＬ＞
http://www.macromill.com/r_data/20140410M3/

【医師調査　調査結果概要】

■平成 26 年度診療報酬改定、医師の 74%が「収支に影響あり」

今回の改定全般について、医師に勤務先施設の収支への影響を尋ねたところ、「影響がある」との回答は 7 割を超え、医師にとってインパクトがある改定であることがわかります。【図 1】

【図1　診療報酬改定の収支への影響は？】
n=501



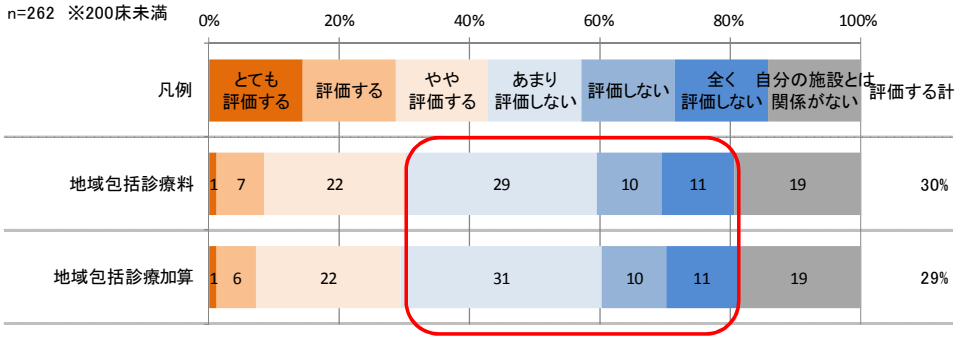

■新設された地域包括診療料／地域包括診療加算を「評価しない」とした医師が半数以上

医師に、新設された地域包括診療料と地域包括診療加算についてそれぞれどう評価するか尋ねました。質が高く効率的な医療提供体制を提供するため、機能分化の目的で織り込まれたこれらの主治医機能ですが、医師（勤務先施設の病床数 200 床未満）の評価は低調でした。【図 2】

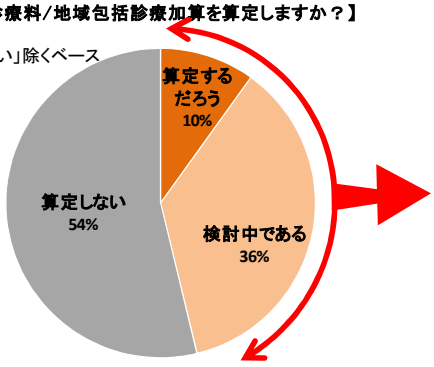
さらに地域包括診療料・診療加算を「算定する」と回答したのは 46%でした。【図 3】

「算定する」と回答した医師に、算定する場合の調剤の対応を確認すると、6 割以上が「地域の薬局と連携」を選択しています。【図 4】

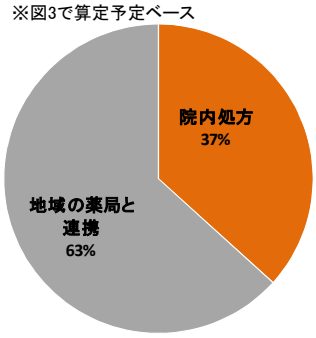
【図2　下記のそれぞれについて評価しますか？】
n=262　※200床未満




【図3　地域包括診療料/地域包括診療加算を算定しますか？】
n=212
※図2で「関係がない」除くベース




【図4　算定する場合、院内処方？地域の薬局と連携？】
n=98　※図3で算定予定ベース

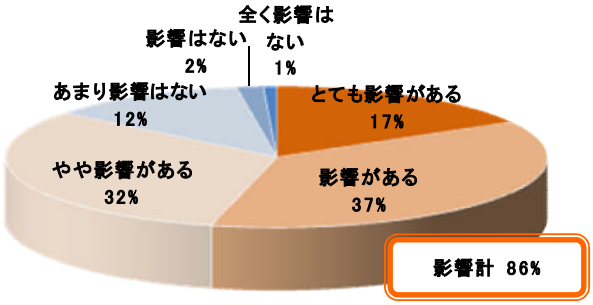


【薬剤師調査　調査結果概要】

■平成 26 年度調剤報酬改定、薬剤師の 86%が「収支に影響あり」

今回の改定全般について、薬剤師に勤務先施設の収支への影響を尋ねたところ、「影響がある」との回答は 86%でした。中でも「とても影響がある」は 17%見られました。医師よりも薬剤師の方が収支への影響をより強く感じているようです。【図 5】

【図5　調剤報酬改定の収支への影響は？】
n=503

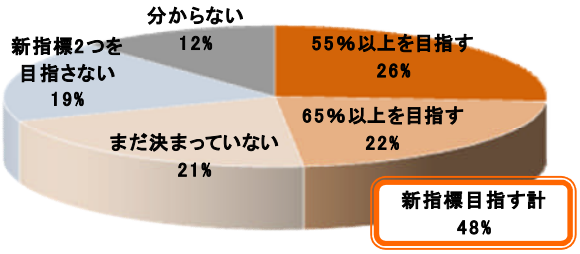



■後発品調剤比率の新指標「55%以上」26%、「65%以上」22%、約半数が新指標を目指す

薬剤師に現在の後発品調剤比率を尋ねたところ、「35%以上」が約半数で最多でした。以下「30-34%」15%、「22-29%」10%と続きます。「35%以上」との回答は、病院内薬局・病棟勤務、個人調剤薬局と比べてチェーン調剤薬局・ドラッグストア内の調剤薬局が最も高い結果となりました。

また、後発品調剤比率の新指標を目指すかどうかを尋ねたところ、「55%以上を目指す」と「65%以上目指す」でほぼ二分しました。一方で「新指標は目指さない」という回答も 2 割弱見られます。現在の後発品調剤比率と同様に、チェーン調剤薬局・ドラッグストア内の調剤薬局ほど新指標に前向きな姿勢が見られました。【図 6】

【図6　後発品調剤比率の新指標を目指す？】
n=503



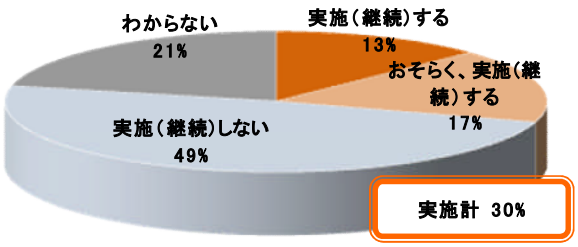
■今後、在宅患者の訪問による薬剤管理・指導を 3 割が実施予定

薬剤師に現在、在宅患者の訪問による薬剤管理・指導を実施しているか尋ねたところ、22%が実施していました。大半が非実施ですが、病院内薬局・病棟勤務、個人調剤薬局と比べ、チェーン調剤薬局・ドラッグストア内調剤薬局で最も実施比率が高い結果となりました。

また、今後、在宅患者の訪問による薬剤管理・指導を行うか尋ねたところ、3 割が実施する（実施する＋おそらく実施する）と回答しました。【図 7】

在宅患者の訪問による薬剤管理・指導実施の阻害要因は、自由回答を見ると人的リソースの問題が主でした。

【図7　今後、在宅患者の訪問による薬剤管理・指導を行う？】
n=503




調査結果の引用・転載に関するお問い合わせ
株式会社マクロミル　広報室：高橋
TEL：03-6716-0707　MAIL: press@macromill.com

調査内容に関するお問い合わせ
株式会社マクロミル　FMCG 営業部　第 2 営業ユニット　メディカルグループ：熊野
TEL:03-6716-0710　MAIL: m3d@macromill.com
URL：http://www.macromill.com/